

## 袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和3年7月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和3年7月27日(火)午後1時30分
会 議 時 間	午後1時30分から午後4時00分まで（2時間30分）
場 所	教育会館3階 会議室B
出 席 者	鈴木一吉 教育長 上原富夫 委員 大谷純應 委員 瀬川香織 委員 鈴木万里子 委員 (計：5人)
欠 席 者	無し
傍 聴 者	無し
当局出席者	城内 優 教育部長 山本裕祥 教育監 長谷川修一 教育企画課長 小鷹義晴 おいしい給食課長 大庭英男 すこやか子ども課長 加藤邦夫 育ちの森所長 神田明治 学校教育課長 村田秀明 生涯学習課長 山本義孝 歴史文化館長 内野江梨子 袋井図書館長 山本 浩 教育企画課長補佐 北出 崇 教育企画課幼小中一貫教育推進室主任主査 (計：12人) (合計：17人)
会議に付した 事 件	別紙「令和3年7月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

## 令和3年7月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：令和3年7月27日(火)  
午後1時30分開会  
場所：教育会館3階 会議室B

### 会 議 日 程

#### 日程第1 開 会

#### 日程第2 会議録署名委員の指名

#### 日程第3 会議録の承認

#### 日程第4 教育長報告

#### 日程第5 教育部月例事業報告

#### 日程第6 議 事（会議に付すべき事件）

##### （1）議決事項

議第10号 令和4～6年度使用中学校教科用図書採択について

##### （2）報告事項

報第64号 令和3年度地場産物を活用した収穫体験等の食育活動について

報第65号 第2期袋井市子ども・子育て支援事業計画主要事業の実績報告  
について

報第66号 通学路等の交通安全点検について

報第67号 令和3年度市民文化活動推進事業（静岡文化芸術大学連携事業）  
の実施について

#### 日程第7 意見交換

図書館の現状と今後の検討に向けて

#### 日程第8 その他

##### （1）次回定例会等の予定について

8月教育委員会定例会

8月27日（金）午後1時30分～ 教育会館3階 ICT研修室

##### （2）その他

#### 日程第9 閉 会

## 1 開会

### ●鈴木教育長

ただ今から、令和3年7月袋井市教育委員会定例会を開会いたします。  
議事がスムーズに進行できますよう、御協力をお願いいたします。

## 2 会議録署名委員の指名

### ●鈴木教育長

袋井市教育委員会会議規則第16条第2項の規定に基づき、上原委員及び大谷委員を指名いたします。

## 3 会議録の承認

### ●鈴木教育長

6月定例会の会議録について承認されています。

## 4 教育長の報告

### ●主な報告事項

総合教育会議等

その他は資料のとおり

## 5 教育部月例事業報告

### ●教育企画課

・袋井市立学校職員安全衛生協議会 (8月26日)

### ●おいしい給食課

・今井小学校チンゲンサイ収穫体験 (6月30日)

・学校給食用物資納入業者衛生視察 (8月19日)

・食物アレルギー研修会(保護者向け) (8月23日)

・学校給食従事者衛生研修会 (8月24日)

### ●学校教育課

・袋井市コミュニティ・スクール推進協議会 (7月26日)

・袋井市人権・同和研修会 (7月27日)

### ●すこやか子ども課

・幼児期から始める性教育研修会 (7月6日)

・袋井市子育て支援拠点施設運営協議会 (7月6日)

・認定こども園化に係る保護者説明会 (7月8日、9日)

・認定こども園化に係る保護者説明会 (7月12日、16日)

- ・放課後児童クラブ支援員等研修会 (7月13日)
- ・臨時園長会 (7月19日)
- ・第1回袋井市子ども・子育て会議 (8月11日)
- ・保育所長会 (保育所・認定こども園) (8月17日)
- ・定例園長会 (8月24日)
- ・保育所長会 (小規模保育) (8月26日)

●育ちの森

- ・子ども早期療育支援センター運営協議会 (7月8日)
- ・子ども早期療育支援センターはぐ茶会 (保護者会) (7月14日)
- ・子ども早期療育支援センター園対象公開療育 (7月12日～8月2日)
- ・子ども支援室子ども支援研修会 (7月9日)

●生涯学習課

- ・令和4年袋井市成人式第1回実行委員会 (7月2日)
- ・緑陰おはなし会 (7月3日)
- ・第1回袋井市社会教育委員会 (7月6日)
- ・市民文化活動推進事業 (静岡理工科大学連携事業) もじもじじっけんワークショップ (7月10日)
- ・第1回袋井市青少年問題協議会 (7月14日)
- ・市民文化活動推進事業 (静岡文化芸術大学連携事業) 絵本ワークショップ (8月16日、17日)

## 6 議事

●鈴木教育長

議案の審議に入る前に、本定例会の議案の取り扱いについてお諮りいたします。

議第10号については、中学校教科用図書採択に関する議案のため、共同採択地区の磐田市及び森町教育委員会の審議に影響が出る可能性があること、また、公平かつ公正な審査がされるため、袋井市教育委員会会議規則第14条の規定により、本議案に係る審査は非公開で行いたいと思いますが、異議はありませんか。

[質疑・意見]

なし

●鈴木教育長

それでは、議第10号を非公開といたします。

## 【議決事項】

### (1) 議第 10 号 令和 4 ～ 6 年度使用中学校教科用図書採択について

(非公開)

## 【報告事項】

### (1) 報第 64 号 令和 3 年度地場産物を活用した収穫体験等の食育活動について

#### ●おいしい給食課長

教育委員会では、収穫体験等の食育活動に取り組んでおり、今年度の実施計画が確定しましたのでお知らせします。

1 の表をご覧ください。市内には 12 小学校ありますが、うち 7 小学校で、今年度、おいしい給食課が主体となった食育活動を行います。内容は、グリーンピースのさやむきやチンゲンサイ等の収穫体験が主となりますが、袋井南小学校では、1 年生の道德の授業において、給食センターから調理場の映像を配信し、子どもたちがタブレットを活用してそれを視聴するという授業を行うこととしています。

これらの取組については、マスコミに情報提供し、取り上げてもらうことにより、おいしい給食課の活動を広く市民に理解していただけるよう進めてまいります。

[質疑・意見]

なし

### (2) 報第 65 号 第 2 期袋井市子ども・子育て支援事業計画主要事業の実績報告について

#### ●すこやか子ども課長

第 2 期袋井市子ども・子育て支援事業計画につきましては、令和元年度に策定をしたもので、令和 2 年度から 6 年度までの 5 か年計画であります。この初年度である令和 2 年度が終了したことから、PDCA サイクルをまわして、実績を評価し、次のアクションにつなげていくため、実績報告をいたします。この PDCA サイクルにつきましては、子ども・子育て支援法の第 60 条に基づき、国が基本指針を定めており、子ども・子育て会議等で活用し、毎年度、点検・評価を行うこととしています。本市の計画書本編のなかにも、93 ページにその旨を記載しています。また、8 月 11 日の子ども・子育て会議においても、この報告をいたします。

表をご覧ください。①の幼児教育施設の 1 号認定、3 から 5 歳の幼稚園定員であります。令和 2 年度の事業確保量は計画値、実績値ともに 2,451 人となっております。実際の利用数は 1,417 人、定員数としては進捗割合 100% ありますが、幼稚園の入園率が 60% 弱と下がっていることから、保護者の保育ニーズに合わせて、認定こども園化による定員数の見直しにより、実態に近づけていく事業確保量の計画値としています。令和 2 年度の取組結果であります。幼児教育施設に約 40% の空き定員があったことから、令和 2 年 4 月に袋井南幼稚園を認定こども園に移行し、幼稚園定員を 138 人減らしました。一方、民間の保育園では、認定こども園化が進んでおり、ハローこども園、ルンビニあゆみこども園などでは、幼児部の定員を若干増

やしています。令和3年度に向けては、若草幼稚園及び浅羽東幼稚園を認定こども園へ移行準備を行いました。令和2年度の課題としては、幼児教育施設に空き定員があることから、引き続き、公立幼稚園の認定こども園化を進める必要があります。令和3年度の取組計画としては、公立3園の統合により進められている「にじいろ」整備の支援、また、山梨幼稚園や若葉幼稚園の認定こども園への移行のほか、他の公立幼稚園の認定こども園化も検討し、1号定員の見直しを進めてまいります。

次に、②の保育施設の2号認定、3から5歳の保育所及びこども園の保育部の定員ですが、令和2年度の事業確保量は計画値、実績値ともに1,425人となっております。これは、保育所とこども園の保育部で定員975人、ここに幼稚園の預かり保育450人を足して、1,425人となるものです。実際の利用数としては、保育所とこども園保育部で959人、幼稚園の預かり保育の最も多い月で63人の利用がありました。進捗割合は100%であります。令和2年度の取組結果としては、袋井南幼稚園を認定こども園に移行し、定員を21人拡大しました。しかしながら、3歳児に2人の待機児童が発生したため、令和3年度に向けて、若草幼稚園や浅羽東幼稚園のこども園化のほか、認可保育所1園、認定こども園1園の新設、移行の支援を行うなど、2号定員の確保に努めました。令和2年度の課題としては、計画上の利用定員は100%となりましたが、3歳児で待機児童が発生したことから、引き続き利用定員の確保が必要となっております。令和3年度の取組については、先程申し上げた、にじいろの整備支援や、山梨幼稚園及び若葉幼稚園のこども園化を進めてまいります。

③の保育施設の3号認定、0から2歳の保育所及びこども園の保育部の定員ですが、事業確保量の計画値949人に対して実績値は893人であり、予定より56人少なかったという状況であります。令和2年4月時点の入所人数は828人でありました。計画値に届かなかった理由として、小規模保育2か所及び企業主導型保育2か所が、建設地調整や人材確保の問題から、計画通りに整備が進まなかったことがあり、進捗率が94%となっております。令和2年度の取組結果としては、袋井南保育所の定員を33人から84人へ、51人拡大したほか、民間保育所や小規模保育の整備で71人の定員拡大を図りました。しかしながら、31人の待機児童が発生したため、令和3年度に向けては、浅羽東幼稚園の認定こども園化、民間保育所や小規模保育の新設、移行の支援を行うなど、定員確保に努めてまいりました。課題としては、0から2歳児の待機児童は解消しましたが、計画上の確保量に達していないことや、待機児童の定義から外れる、いわゆる潜在的待機児童が52人いることから、引き続き利用定員の確保が必要となります。令和3年度の取組計画としましては、②2号認定での取組と同様であります。

次に、④の時間外保育事業ですが、計画値、実績値ともに利用定員が1,611人ということで、進捗割合100%であります。こちらは、全園で延長保育を実施しており、すべての利用者が利用可能となっており、順調に推移していると判断します。

⑤の放課後児童クラブの定員数ですが、令和2年度の事業確保量の計画1,607人に対し、実績1,271人となっており、計画より336人少なかった状況で、進捗割合も79%と低くなっております。令和2年度の取組結果としては、山名小学校校区の放課後児童クラブについて、

校舎内の多目的室を活用して常時開設のクラブを新設しましたが、その他の学校においては、コロナの影響により夏休みが短縮されたことで利用者が大幅に減少したことなどから、現施設での対応が可能となり、定員を拡大しませんでした。このことが計画値に届かなかった理由であります。令和2年度の課題として、三川小学校区では、三川コミセンから校舎内の旧図工室への移転、山名小学校区や浅羽東小学校区でも、学校施設の借用により場所を確保しましたが、コロナの影響から児童同士の間隔を開ける必要があり受入人数を制限せざるを得なくなった状況がありました。また、山名小学校区や袋井南小学校区で申込者が増加し、42人の待機児童が発生したということも大きな課題であります。令和3年度の取組計画としては、学校との調整による利用可能教室の確保や、支援員・補助員の処遇改善や民間委託による人材確保を検討することで、待機児童の解消に繋げてまいります。

次に、⑥の子育て短期支援事業につきましては、計画値、実績値ともに利用定員50人です。こちらは、「まきばの家」の年間延べ受入可能数でありまして、令和2年度の利用実績は0人でありましたが、支援が必要な場合にいつでも利用できるような状態になっておりますので、ニーズは満たしております。

⑦の子育て支援センターであります。計画値、実績値とも7か所です。計画値について、令和3年度が6か所、令和4年度から7か所となりますが、こちらは、巡回型子育て支援「くるくる」を令和2年度で廃止すること、令和4年度からにじいろに子育て支援センターが併設されることから、変動するものです。令和2年度の延べ利用者数は4万9,414人で、令和元年度が8万3,497人でありましたので、コロナによる利用控えや入場制限が大きく影響しているものと思われます。課題は、コロナの影響で利用人数を制限せざるを得ず、利用者数が減ったことですが、引き続き、感染予防対策を講じた上で、子育て中の保護者が孤立感や不安感を抱くことが無いよう、機会の確保に努めてまいります。令和3年度の取組としては、感染予防対策を講じてセンターを開所するとともに、保健センターと連携した親子保健室やベビープログラム、父親対象の講座などを実施してまいります。

次に、⑧の一時預かり事業の在園児対象型であります。こちらは、幼稚園の預かり保育の延べ定員です。年間で12万人の計画としていましたが、実績として、12万4,560人分の定員を確保することができました。ハローこども園で10人、ルンビニあゆみ園で9人、計19人×20日×12か月ということで4,560人の増であります。進捗率は104%となっており、利用ニーズに対する定員が確保できており、順調に推移していると言えます。

⑨の一時預かり事業の在園児対象型を除くものであります。こちらは、計画値、実績値ともに8,880人で、進捗割合100%です。令和2年度の延べ利用者数は946人でありました。令和4年度以降の計画値を1万80人としていますが、こちらは、にじいろの整備に伴う増であります。こちらも、十分な定員数が確保され、利用ニーズを満たすことができ、順調に推移しております。令和3年度は、引き続き、ホームページやアプリを活用して、事業の周知を図ってまいります。

次に、⑩の病児・病後児保育事業であります。利用定員は1,200人で、延べ利用者数は76人となっております。こちらは、月見町にあるひだまり保育園に併設された「ぬくもり」という病児・病後児施設の利用者が76人ということでもあります。進捗割合は100%です。また、令和2年度には、ユニキッズ堀越保育園でも、在園児対象となりますが、体調不良児対応型の事業を開始しています。課題としては、現在の施設が市の北部に位置しており、南部に施設がひとつも無いということでもあります。にじいろに病児・病後児施設が併設されるということがあり、令和4年度から計画値を480人増やしているものであります。今後の取組としましては、にじいろに併設する事業の開設支援を行うほか、磐田市や掛川市との施設の相互利用、広域利用についても検討していきたいと考えております。

⑪のファミリーサポートセンター事業であります。利用定員は1,800人、延べ利用者数は849人でありました。進捗割合は100%です。こちらについても、利用者のニーズが満たされる定員の確保ができております。会員数は1,134人で、この数字は県内の平均を大きく上回るものだと聞いております。

次に、⑫の利用者支援事業であります。こちらは保育コンシェルジュの配置箇所数を指標としており、計画値、実績値ともに2か所、進捗割合100%となっております。現在、保育コンシェルジュは、すこやか子ども課に1人、健康づくり課に2人配置しており、相互に連携を図っております。引き続き、連携しながら相談事業を進めてまいります。

最後に、⑬の妊婦健康診査事業、⑭の乳児家庭全戸訪問事業、⑮の養育支援訪問事業であります。こちらは、それぞれ、健康づくり課、しあわせ推進課が担当しております。事業の確保方策の内容としては、実施体制を確保するというところで、⑬妊婦健康診査事業は保健師21人、⑭乳児家庭訪問事業は保健師15人、⑮養育支援訪問事業は保健師及び家庭児童相談員14人の実施体制を確保するということとしています。それぞれ、健診の受診率は99%、乳児家庭の訪問率は98%、養育支援の訪問率は100%ということで、いずれも高い実施率になっています。これらの事業は、妊婦の健康維持・増進、児童虐待の未然防止などに大きく関与しますので、健康づくり課やしあわせ推進課と連携して、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、15項目であります。特に利用実績と計画定員数の乖離が大きい部分、③保育施設の3号認定や、⑤放課後児童クラブの定員数につきましては、令和4年度に計画の中間年として見直しをすることとなっておりますので、実績を加味するなかで、実態に近い計画値に修正をしたいと考えております。

#### [質疑・意見]

##### ●瀬川委員

母親は、子どもを産んだ後、特に出産が初めての場合は、いろいろな悩みに苦しむことがあります。乳児家庭全戸訪問事業で、市から保健師が来てもらえるのは、大変ありがたいもので、ここで保健師との信頼関係ができれば、母親たちも安心ができて、その後の子育てにもいい影響があると思います。コロナ禍ではありますが、引き続き母親に寄り添った支援をお願いした



いと思います。

●すこやか子ども課長

入院や転出のほか、最近ではコロナを理由に訪問を拒否されるケースも出てきていますが、オンラインによる面談を行うなど、対象となる全家庭を訪問できるように努めています。訪問が、母親の不安解消だけでなく、療育や虐待防止などにも繋がる場合もありますので、引き続き、健康づくり課と連携して進めてまいります。

●大谷委員

転出や入院など訪問が難しい状況である場合は仕方ありませんが、拒否をされるという場合は、そこに注視が必要であると考えます。

●鈴木教育長

この事業は、⑬の妊婦健診から連続した事業であり、妊娠した時点から継続して支援していくという流れになっています。この後も1歳6か月健診や3歳健診等が行われますが、そこで受診されない家庭への対応は、保健師も非常に丁寧に行っています。

### (3) 報第 66 号 通学路等の交通安全点検について

●学校教育課長

6月に千葉県八街市で、下校中の児童5人が死傷するという大変痛ましい交通事故がありました。この事故を受けまして、本市の通学路における交通安全対策を一層確実にするため、7月2日から14日に掛けて、市内全ての通学路の再点検を実施しました。今回、192箇所の点検の結果、注意喚起の表示、交通規制の検討などが必要であるといった報告があったことから、今後、詳細な現地確認や関係機関との協議を行い、ソフト・ハード別、短期・中長期別に、講じるべき対策を整理し、対応をしてまいります。

次に、2ページ目をご覧ください。こちらに新聞の記事を載せてありますが、政府が、文部科学省、国土交通省、警察庁と連携して、通学路の安全対策に取り組むとしていますことから、財政支援の動向などについて、注視をしてまいります。

[質疑・意見]

●瀬川委員

通常時だけでなく荒天時の通学路の状況も確認してもらえると、より安心して通学できるようになると思います。

### (4) 報第 67 号 令和3年度市民文化活動推進事業（静岡文化芸術大学連携事業）の実施について

●生涯学習課長

本件につきましては、静岡文化芸術大学と連携して、市民文化活動推進事業を実施するものであります。

まず、「1. 目的」であります。子どもの創造力や考える力の育成、文化芸術との触れ合

いを目的に開催するものです。

次に、「2. 講師」であります。静岡文化芸術大学の かわ こうせい 教授にお願いをしまして、そこにデザイン学科の学生がサポートとして加わります。かわ教授は、絵本作家、イラストレーターでもあります。

最後に、「3. 事業概要」であります。実施日は、8月16日及び17日、会場は、16日が教育会館、17日がメロープラザです。対象は、小学4年生から6年生までで、内容は、講師と絵本を読んで、新しいキャラクターをつくるワークショップになります。本事業の予算は、35万円ですが、地方創生事業として実施することで、事業費の2分の1が国から交付されます。

[質疑・意見]

なし

## 7 意見交換

図書館の現状と今後の検討に向けて

[主な意見]

- ・市民が集まる憩いの空間とするのか、蔵書の充実した図書館とするのか、両方の機能を併せ持った施設とするのか、市民のニーズからあるべき姿を考える必要がある。
- ・視覚や聴覚に障害がある人、小さい子どもから高齢者まで、多様な人々が利用しやすい図書館というのも、今後の方向性のひとつではないかと思う。
- ・袋井市の図書館は、集中して調べ物ができるといよりも、親子で利用しやすい図書館になっていると感じる。
- ・自動車社会であり、近隣市の図書館も利用できることから、それぞれでどこかに特化させるなど、図書館ごとに色分けを図ってもよいのではないか。
- ・袋井図書館は、駐車場が分散しており、自動車で利用する人にとっては、利用しづらい状況があると思う。
- ・静岡理工科大学の図書館には、専門書があるだけでなく、科学に親しむコーナーなどもあり、市の図書館と連携してもらえれば、市民にとっても有益であると思う。
- ・札幌市の図書・情報館は、本の貸出をしない、ビジネス支援に特化した施設で、多くの人に利用されており、ヒントになるかもしれない。

## 8 その他

### (1) 次回定例会等の予定について

8月教育委員会定例会

8月27日（金）午後1時30分～ 教育会館3階 ICT研修室

(2) その他

9 閉 会

(午後 4 時 00 分閉会)